

申請者	学科名	看護学科	職名	助教	氏名	浅井 美穂
調査研究課題	社会学的視点からみる「これからの看護師像」に関する考察（序説）					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表 浅井美穂	看護学科・助教		成人看護学	調査・分析・論文作成	
調査研究組織	分					
	担					
調査研究実績 の概要	者					
	<p>多種多様な価値観やライフスタイルが尊重される現代社会の中で、医療を受ける患者のニーズも多様化している。看護師に対しても多くの能力が求められ、その役割は複雑化する一方である。社会の変化を捉え柔軟に対応できない看護の継続は「患者が安心・信頼できる医療の提供」を不確実にするため、早急に取りかかるべき社会的問題である。</p> <p>本研究ではこうした現状を打開すべく、現代社会における看護システムの現状構造・期待構造に関する先行文献について検討を行った。その結果、筆者は、看護場面における「自己」と「他者」との間の物理的な非連続性に着目した。すなわち、看護師が対象とする患者は様々な可能性を持ちあわせた存在であり、そこでは絶えず理解と共有を図りながら患者との関係を考える他ないということである。患者や患者の置かれた状況を画一的な視点でとらえる行為は危険であり、機械的な看護行為を遂行する事態を発生させかねない。我々が物理的に他者へ内在することは不可能である。しかし、それらを補う看護行為の1つにコミュニケーション実践が挙げられる。E.ウィーデンバックとC.フォールズは、“看護の実践が患者と看護師を主役とする相互作用である場合、看護行為の前提として患者と看護師の間の信頼関係の重要性が強調される”と述べている（Wiedenbach/Falls,1987）。</p> <p>これらの分析より、本研究の当初の目的であるこれからの看護師像について考察する上で、まずは現代における看護師のコミュニケーション実践に関する社会的特性を明らかにすることが必要不可欠であるという結論に至った。今後は本研究における文献検討の際に発見した新たな課題について、調査項目を再検討した上で研究を進める予定である。</p> <p>本研究による研究費の支出は無かった。</p>					